

ののかぜにお獅子現る

1月17日、ののかぜ保育園で恒例となった“獅子舞の会”が開かれました。例年見てきている幼児クラスの大きい子たちは、獅子舞の演者のことを覚えているようで、獅子をかぶる前は、この人が演ずるという感じでワクワクしながら楽しみにしている感じでした。いざ、獅子をかぶるとドキドキしながらも、お獅子が舞う演技を楽しみながら見ていました。一方、ホールで初めて演技を見たすみれ組の子どもたちは、“こわい〜”と言いながら先生たちにくっついていたり、顔を隠していたりと、その姿がかわいかったです。

さて、一連の演技の後はお獅子に頭を噛んでもらう段に。子どもたちは、少しドキドキしながら、1年間元気に無事に過ごすことが出来るよう願って順々に頭を噛んでもらいました。



2月3日には今度は節分があります。新しい季節が始まり、邪気や悪いものを落として、幸運を呼び込むとされる節分の行事を楽しみたいですね。子どもたちは“鬼”の登場が恐怖の様ですが…。

命のはなし

子どもたちに、命が生まれてくることの素晴らしさと、その命を大切にしたいという思いから、助産師の山形さん（どんぐり保育園 0B）に保育園に来てもらい、「命のはなし」を5歳児さくらさんたちを対象に行いました。

あかちゃんが生まれてくるまでの話しや、あかちゃんの心音を聞かせてもらったり、はがき大の黒画用紙に針で穴をあけたものが手渡され、「この小さな穴、自分の最初の体の大きさだよ」と教えてもらおうと「え〜!？」と驚いている子どもたちでした。

そして、このあかちゃんが少しずつ大きく、そして重くなっていく実物大のモデルを見せてもらいながら、実際に抱っこし、あかちゃんの重さを感じとっていた子どもたちでした。

子どもたちは、“生まれてくるときあかちゃんが一番がんばった”“黒い点（あかちゃん）があんなにちいさかったんだとおどろいた”など感想を出し合っていました。

家に帰ってから、親子で生まれてきた時のことなど話し合われたようで、お兄ちゃんの遊んでいる声が一番の子守歌だったなど、あかちゃんだった時の話を聞き、その様子を思い浮かべてニコニコしていた等の感想をいただきました。山形さんから、「親子で話ができた感想を読むと、本当によかったなあと思います。お子さんの中に何かしら一つでも残ってくれると嬉しいなあと思います。」というお返事を頂きました



/// 山形さんから子どもたちへのメッセージ ///

- ・一人ひとり、待ち望まれて生まれてきた世界でたった一つの大切な宝物である。
- ・お母さんのおなかの中で10カ月いて、頑張って生まれて来たこと。
- ・命を大切にすること。それは自分自身を大切にすること。
- ・まわりの人のことも大切にすること。